

**Citation:** Millett DT, Glenny AM, Mattick CR, Hickman J, Mandall NA. Adhesives for fixed orthodontic bands. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2007, Issue 2. Art. No.: CD004485. DOI: 10.1002/14651858.CD004485.pub3.

**CRG名:** Oral Health

## [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 21 February 2007

**Clib issue No.;** N/U: 2008 issue 1; -

**背景:** 矯正治療では、歯並びを整えるために固定式あるいは可撤式装置(いわゆる矯正器具)を使用する。可撤式装置よりも固定式装置の方が良い治療結果が得られることが報告されてきた。それゆえ固定式矯正装置(マルチブラケット装置)は多くの矯正医に好んで使用されてきた。固定式矯正装置の成功の鍵は、金属製のアタッチメント(ブラケットとバンド)が歯に確実に固定され、治療期間中外れないことである。通常ブラケットは、前歯や側方歯の歯面に直接接着され、大臼歯にはバンド(歯の周りを取り巻く金属製の輪)が一般的に使用される。バンド接着用に何種類もの接着剤が商品化されており、どの種類の接着剤が最も確実に接着できるのか、また同様に、どの種類の接着剤が、矯正治療中のう蝕を減少させたり、予防できるかを理解することは重要である。

**目的:** 固定式矯正装置による治療で、バンド装着用接着剤の効果を以下の観点から評価すること。

- (1) 治療期間中どの程度の頻度でバンドが脱落するか。
- (2) 治療期間中に、バンド装着歯をう蝕から予防できるかどうか。

**検索戦略:** The Cochrane Oral Health Group's Trials Register(2007年1月27日)、CENTRAL(TheCochrane Library 2007, Issue 1)、MEDLINE(1966年から2007年1月29日まで)、EMBASE(1980年から2007年1月29日まで)を検索した。インターネット上での検索も行った。言語や出版形式には制限を設けていない。

**選択基準:** 大臼歯に矯正用バンドを装着するために接着剤を使用したランダム化比較試験(RCT)および比較臨床試験(CCT)(スプリットマウスデザイン研究を含む)が選択された。大臼歯にバンドを装着した全顎固定式矯正装置装着患者も選択されている。

**データ収集と分析:** 全レビューアが、論文著者や使用した接着剤、あるいは得られた結果に対するブラインドなしで、研究の選択、有効性の評価、データの抽出を行った。意見の不一致は、合議により解決した。

**主な結果:** 採択基準の適用によってRCT5編、CCT3編が選択基準に合致していた。それら全ては、スプリットマウスデザインであった。

4編が、化学硬化型リン酸亜鉛セメントと化学硬化型ガラスアイオノマーセメント、3編が化学硬化型ガラスアイオノマーセメントと光硬化型コンポマー、1編が化学硬化型ガラスアイオノマーセメントと化学硬化型グラスホスホネートの比較であった。データの解析は、採択基準に合致した研究であっても、妥当でないものがほとんどであった。

**レビューアの結論:** 臼歯に矯正バンドを装着するための最適な接着剤(セメント)に関しては不十分なエビデンスしか存在しない。今後、さらなる複数のRCTが必要である。

(翻訳 島田達雄・監訳 毛利 環; JCOHR)

翻訳公開日: 08年4月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。

